

若い力で取り組む複合経営と仲間づくりで進める地域農業の活性化

佐藤 勇人 (遊佐町)

1 受賞者の概要

28歳で水稻2haの経営を継承し、関係機関との連携や仲間との研鑽を積み複合化と規模拡大を進めた。

現在、40歳で水稻9ha、施設園芸（パプリカ40a、アスパラガス25a）、農産加工の経営を実践し、若手農業者の経営モデルとなっている。

また、地域雇用の創出や新規就農者の育成にも尽力し、若手農業者のリーダーとしてアスパラガスの産地づくりに取り組み、地域農業の活性化に貢献している。



2 特色ある活動

(1) 勉強会や意見交換会を積極的に実施

若手農業者をまとめ、各種勉強会や意見交換の場をつくり、農業経営の改善や地域農業の活性化に貢献している。

「土づくり勉強会」では、その重要性を学び、有志で重機を活用し、新たなアスパラガス生産者の土づくり（深耕、堆肥投入）を支援する体制を整備した。

農協幹部との意見交換会では、農協選果場へアスパラガスの選果・調整機の導入を要望し、栽培に取り組みやすい環境整備を実現した。また、天敵を活用した防除について資材メーカーと連携し、試験的にパプリカ栽培で取り組み、農協と部会で効果とコストを明らかにしながら普及を検討している。

(2) 新規就農者と仲間づくりで地域農業の担い手育成に貢献

勇人氏は、就農希望者の相談を引き受けながら、農業次世代人材投資事業（準備型）の研修生を2名受け入れ、うち、1名が農業経営を開始している。

さらに、就農予定者を1名雇用し、栽培予定品目（水稻、アスパラガス）の技術指導と、勇人氏のハウスに隣接する形でハウス建設を促し、就農後の支援も可能にしている。

一方、母の富子氏も、平成22年から本県の指導農業士（酒田地区農業士会所属）となり、県農業士会における酒田地区の女性代表も務めるなど、地域の担い手育成に尽力している。

(3) 6次産業化の展開

母、富子氏が主体となり、パプリカの規格外品を活用した農産加工に取り組み、パプリカジャムやパプリカジュース（委託加工）等を商品開発し販売している。その他、「しょうゆの実」等も根強い人気で、複数の直売所等で販売している。これらの加工品の販売活動をとおり、パプリカ産地として、遊佐町自体のPRにもつながっている。

3 今後の発展方向

仲間や関係機関、関連業者との連携を継続し、法人化を見据えた規模拡大に取り組む。さらに、新規就農者や若手農業者の育成を図りながら、アスパラガスの産地化を目指し、地域農業の活性化にもつながりたいと考えている。